愛媛大学法文学部人文社会学科
法学政策学コース 4 回生 石橋 凌(ISHIBASHI RYO)

台湾・開南大学への留学の成果

1. はじめに

私は 2022 年 9 月から 2023 年 7 月にかけて、愛媛大学の国際交流協定校である台湾の私立開南大学に交換留学生として留学し、単位互換を得た。私は開南大学人文社会学部応用日本語学科に所属し、留学プログラムを受講して中国語を修得した。また愛媛大学での研究テーマを活用して「日台の SDGs 比較」を研究することし、台湾の先進事例から SDGs 推進を検討すること、特に脱炭素のための交通機関のエネルギー転換について考察した。あわせて異なる国籍・国民性、個性を持つ学生と交流し、充実した留学生活を送った。本報告書では留学動機、留学成果と留学成果の活用について記す。

2. 留学動機

私は広島市出身であり、小中高校で平和学習推進事業による平和学習を体験した。平和学習を通して、平和への思いは強くなり、将来像として平和友好に携わることを掲げるようになった。大学では人文社会学科に所属し、SDGs 推進を専攻して、改めて平和の尊さ、大切さを認識した。私は学びを通して、アジアの平和構築に興味を持ち、その第一歩として日本と台湾の関係に関心を持った。近年、日台関係は、観光業や貿易業など経済面における結びつきがあるとともに、相互の文化への関心も広がっている。しかし、かつて日本は台湾を統治した歴史があり、私は台湾人が日本・日本人を快く思っていないのではないかと推測し、本当のことを知りたいと考えた。また台湾は国連に加盟していないにも拘わらず SDGs 推進をして世界の注目を集めており、実態を知りたいと考えた [1]。私は台湾留学にあたり、中国語を修得し、台湾の実情を知り、台湾人との交流をしたいと考えた。このようなことから私は台湾留学を決意した。

3. 留学計画書

私は台湾留学に先立ち、留学計画書を作成し事前学習に取り組んだ。

留学の目的と具体的な達成目標：
「日台の SDGs 比較」を研究テーマとし、特に脱炭素のための交通機関のエネルギー転換について考察する。また日台・アジアの国際理解と平和構築及び台湾の企業の国際転換と外交政策について考察する。加えて語学（中国語・英語）の研究を進める。
留学に向けての事前準備：
1．語学研究 ・中国語及び日本語・英語の研究比較研究 **2．日台比較研究** ①日本と台湾の SDGs 推進の比較研究 ・交通機関のエネルギー転換の調査：日台脱炭素対策 ・観光まちづくりと産業の調査：日台観光振興 ②日本と台湾及びアジアの国際関係の比較研究 ・歴史、特徴、文化、国際関係、平和構築及び外交政策と企業経営の国際発展の文献研究

[1] Chapters of the Sustainable Development Report 2023 を参照。

4. 留学成果

４－１　語学研究

【写真】グループ学習の様子

私は留学前には中国語能力が低く、担当教員の指導を得たことが留学後の習熟に役立った。私は応用中国語学科の中国語の授業を受講し、華語發音等を修得した。中国語は日常生活やグループ学習で使用するためにおろそかにできない。私は中国語の研究と習熟度を確認するために、台湾政府公認「中国語試験　TOCFL　華語文能力測驗」を 1 年間で 5 回取り組み、習熟度の変化を記録し、長所短所を分析し、中国語学習のモチベーションを高め続けるために積極的に受験した。結果と向き合い、独自に中国学研究の方法、対策を検討し、同試験の結果を高めた。また中国語の授業や専門の授業は中国語で理解し、調査やグループ学習をすることができるようになった。語学研究では学生寮で台湾人と暮らしたために中国語を使う機会が多く、台湾人学生の助言を得て研鑽した。今後、私は語学研究の成果をグローバルな活動や国際交流の場で活かし、語学力のさらなる向上に取り組みたい。

４－２　日台比較研究

４－２－１　日本と台湾の SDGs 推進の比較研究：交通機関のエネルギー転換の調査：日台脱炭素対策

【写真】台湾電動バイクの調査

私は台湾の SDGs 推進の実態を調査する中で、人々が電動バイクの電池を一瞬で交換し走り出す光景に衝撃を受け、充電スタンドやバッテリーステーション等のインフラ設備の整備に関心を持った。そこで私は対象を「SDGs 目標 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」とし、日台における脱炭素と交通機関のエネルギー転換を比較調査した。

日本の主な移動交通手段は自動車であることに対し、台湾の主な移動手段はバイクであることに留意した上で、過去 5 年間(2017 年~2022 年)の両国の移動手段の電動化の推移について各年の燃料別販売台数を基に検討したところ、台湾は日本に比べ推移率が高いことが確認できた。日本との間に乖離をもたらしたその背景には、台湾政府が取り組んでいる①電動バイク及びインフラ施設拡充の開発援助、②電動バイクに対する認知の拡大、③購入の誘因機会の提供の政策だけではなく、企業及び国民の協力により電動バイクの普及率が向上したことが研究を通して判明した。今後、検討すべき課題として再生可能エネルギーによる電力供給率の向上等も把握した。私は引き続き台湾の取り組みに注目しながら、同時に日本と世界の SDGs 推進に積極的に参加し、知識を深めて活かすことに取り組んでいきたい。

４－２－２　観光まちづくりと産業の調査：日台観光振興

私は語学研究を目的とした授業の履修と同時に観光及び飲食ホテル学科の観光学を履修した。観光学では台湾の観光業の発展を統計や資料から調査するだけではなく、学生による仮説と検証を重視した課題が要求された。また観光資源を発信するために動画製作技術も要求された。例えば、日本人観光客向けに著名な観光地の龍山寺を解説する動画を製作する課題では下記の手順で取り組んだ。

（1）寺院の専門家の解説から龍山寺の特徴や歴史を理解。

（2）解説に基づき龍山寺の紹介をまとめ、アンケートを作成。

（3）アンケート調査を実施し、結果に基づいて龍山寺の見どころを選定し、日本人観光客向けのツアーを検討。

【動画】観光学：龍山寺の紹介

https://youtu.be/wvzLCSs9OzA

（4）龍山寺ガイドツアーを実践し、実践動画を Youtube 上に掲示した後、授業で発表し評価を得る。

私は日本人を対象にアンケート調査をしたが、対象となる観光客は学生によって異なり、調査対象者の文化や関心に基づいたツアーを作成していた。この仮説と検証を重視した授業方法は日本の授業との違いでもあり、研究の成果を高めることができた。

４－３　日本と台湾及びアジアの国際関係の比較研究：歴史、特徴、文化、国際関係、平和構築及び外交政策と企業経営の国際発展の研究

私は日台・アジアの国際関係を理解する上で台湾史を履修した。台湾は 16 世紀後半より西太平洋の貿易航路の要所と注目され、同時に各国の勢力が競い合う対象となった。そのため台湾は現在に至るまでに複数の政権の変遷を経ており、国旗は 8 回[2]ほど変化している。私は研究計画書に基づき、対象を日本統治時代の建造物にし、資料・文献研究と実地調査を通した比較研究を行い、過去と現在の相違点とその意味を検討した。例えば日本統治時代の台北帝国大学と現在の国立台湾大学の比較調査では、日本統治下の建築物と実際の建築物の照らし合わせに取り組み、以前よりも学部・学科が多様化しており、施設が増えているものの、台北帝国大学時代の大部分の建造物が現在の国立台湾大学に引き継がれていることを確認した。これらの調査に基づき、私は台湾人の国民意識が歴史への敬意と次世代への教育に焦点当て、歴史の連続性と現代社会とのつながりを尊重する傾向があるのではないかと検討した。このような国民意識は台湾の全人口の 1.1%を占める 16 族の原住民族[3]の保護と多文化共生社会の発展につながり、台湾の多様性の相互に尊重する要素であると思う。私は人生目標として日台関係の架け橋となれるように、台湾史の履修を活用した積極的な交流を促していきたい。

【動画】台湾史：歴史遺産調査
https://youtu.be/SZcMNiLbJQI

5.　留学成果の活用

留学期間中私は研究成果とあわせてルームメイトの実家でのホームステイ体験や台湾に留学する異なる国籍・国民性、個性を持つ学生と交流した経験を和田寿博教授の協力のもと、遠隔で授業などで積極的に発信した。学生にとってはコロナ禍により国際交流の機会が著しく減少していたため、留学の状況や体験の紹介を受け取ることは新鮮な刺激となった。そして学生たちに留学の可能性を与えることができた。

帰国後は授業で留学体験や成果を紹介することに加え、愛媛大学大学院の院生と研究交流を行い、留学成果の活用を検討した。留学成果や体験を対面紹介する際、私は台湾人留学生との実践的な会話を披露することや台湾の食べ物を提供することなどを通して、学生の台湾に対する関心を高めた。そして国際交流に関心も持つ学生や中華文化に関心を持つ学生たちに対し、月に一回程度台湾人との国際交流の機会を主催し、相互の文化交流・理解を促進している。

2024 年 3 月、私は和田教授が主催する海外研修（台湾）の学生代表者として、開南大学学生・教員と連絡を取り、研究と交流の準備を進めている。私は研修希望学生と自身の研究成果を再評価する研究会を実施し、台湾研修に向けてより学術的研究テーマを検討している。そして日台友好、学生の成長に意義のある研修を目指す。　観光学を履修した経験は、愛媛大学観光サービス人材リカレントプログラムで紹介するとともに、関係者から観光産業の知識を見聞するなど、観光産業の研究及び振興に取り組んでいる。

---

[2] ここでは荷蘭共和國,荷蘭聯國東印度公司,西班牙帝國,鄭氏東事王國,清帝國,台灣民主國,日本,中華民國の国旗を指す。

[3] 台北駐日経済文化代表処：台湾の原住民族文化 - 台北駐日経済文化代表処 Taipei Economic and Cultural Representative Office in Japan (roc-taiwan.org)を参照。

6. おわりに

私はこの留学で研究や交流を通した人間形成により国際社会に生きる若者として成長した。留学で得た成果は本学での学びと結びつけて研鑽し、学術研究を通した人格形成を展望する。また次世代と留学成果を評価し、より高度で意義深い研究テーマに取り組みたい。私はこれらの留学経験や成果を原点にして日本と世界で SDGs を推進している地域、組織に関わりその推進・未来を考えるとともに、平和友好の懸け橋として活動したい。

7. 謝辞

留学にあたり終始多大なご指導を賜った全ての方々に心より感謝申し上げます。

愛媛大学法文学部法文学部の先生

同教育支援課法文学部チームの職員さん

同国際連携課職員さん

開南大学の先生

開南大学の学生たち

以上

TOCFL

華語文能力測驗成績證明

Test of Chinese as a Foreign Language Score Report

姓名 Name：石橋凌 ISHIBASHI RYO

出生日期 Birth Date：

考試日期 Test Date：2023 年 7 月 15 日 (July 15, 2023)

測驗等級 Test Level：電腦化適性測驗 (CAT)

考試地區 Test Area：臺灣(Taiwan)

考生編號 Test No.：

聽讀測驗總和 Total Score	證書等級 Certificate Level
1085	進階級 (Level 3)

測驗項目 Test Type	測驗成績 Test Score	測驗結果 Test Result	CEFR 等級 CEFR Level

測驗項目 Test Type	相當於臺灣華語文 能力基準等級 TBCL Level	相當於美國外語教學委員會 指標等級 ACTFL Level

國家華語測驗推動工作委員會

Steering Committee for the Test Of Proficiency-Huayu

國家華語測驗推動工作委員會 TOCFL 成績專用章 SC-TOP

中国百科検定

三級
認定証
（ものしりコース）

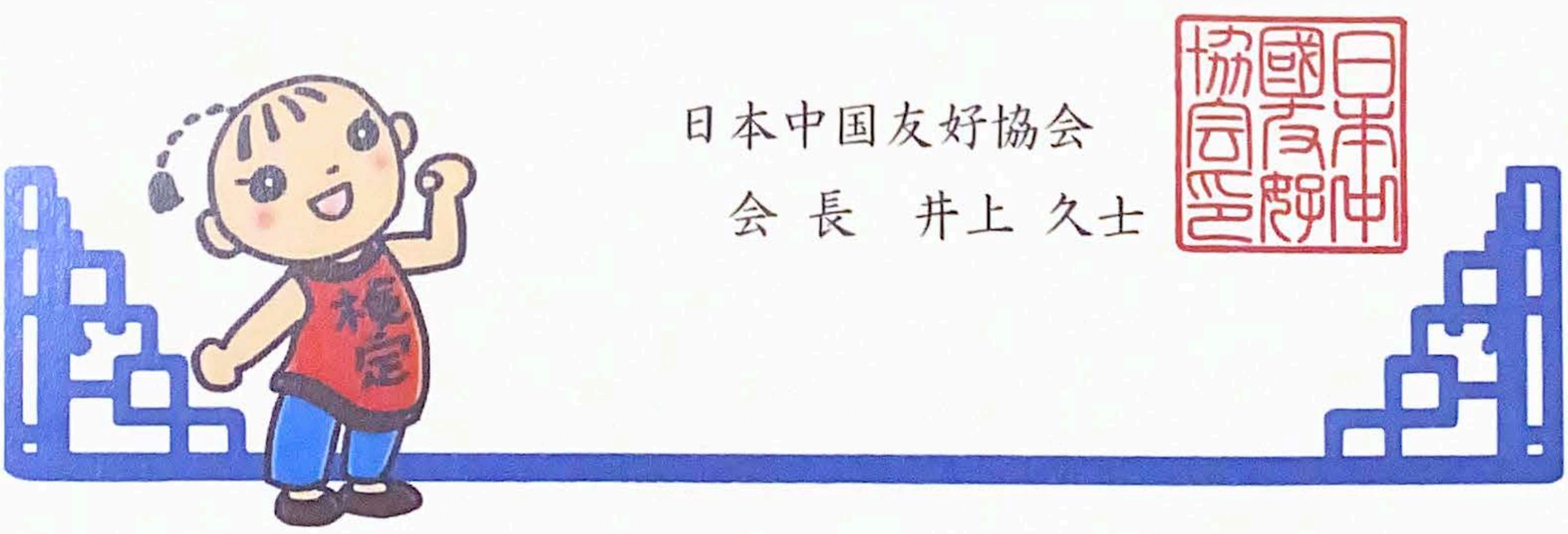
氏　名　石橋 凌

認定番号

受験日　2022年7月16日

あなたは日本中国友好協会の主催する第11回中国百科検定試験三級（ものしりコース）に合格しましたここに認定いたします

日本中国友好協会
会長　井上 久士



英検

実用英語技能検定

2級

合格証明書

個人番号

石橋　凌

上記の者は当協会主催　2022年度　第1回　実用英語技能検定において
頭書の級に合格したことを証明します

英検 CSEスコア	総合スコア	Reading	Listening	Writing	Speaking
	2000				
CEFRレベル	4技能総合CEFR	Reading	Listening	Writing	Speaking
	B1				
英検バンド	一次	二次			
	G2 +1	G2 +1			

受験日	2022/07/16	認定日	2022/07/15	発行日	2022/07/15

公益財団法人 日本英語検定協会

英検

2022-1

Date of Examination	July 16, 2022
Date of Certification	July 15, 2022
Date of Issue	July 15, 2022

2022-1

2

英検

Certificate

EIKEN **Grade 2**

This is to certify that RYO ISHIBASHI
has successfully passed the above level of the EIKEN Test in Practical English Proficiency, conducted by the Eiken Foundation of Japan.

EIKEN CSE SCORE	Overall	Reading	Listening	Writing	Speaking
	2000				
CEFR LEVEL	4 Skills Overall CEFR	Reading	Listening	Writing	Speaking
	B1				
EIKEN BAND	First Stage	Second Stage			
	G2 +1	G2 +1			

July. 15, 2022

Eiken Foundation of Japan